一本針 本縫い 自動糸切り プロ用ミシン

SPUR 98 *deluxe*

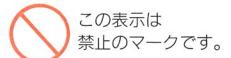
シュプール・デラックス
TL-98DX

96

取扱説明書

⚠ 注意	安全にご使用していただくため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、いつでもご覧になれますように保管してください。

お買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

このミシンは薄物から厚物まで専門家用ミシンとしての仕様を備えています。
このミシンの特長をご理解していただき、正しく、安全にご使用していただくために、
まずこの「取扱説明書」をよくご覧ください。そして、末永くご愛用ください。

安全にご使用していただくために

このミシンを安全にご使用していただくために、下記のことがらは必ずお守りください。

このミシンは日本国内向けです。 FOR USE IN JAPAN ONLY

この表示は
禁止のマークです。

このマークの表示は感電、火災の原因となりますから、特にご注意ください。

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
2. 下記のようなときは電源を切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。
   - ・ミシンのそばを離れるとき。
   - ・ミシンをご使用になったあと。
   - ・ミシンのご使用中に停電したとき。

このマークの表示は感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。

1. コントローラーの上に物をのせないでください。

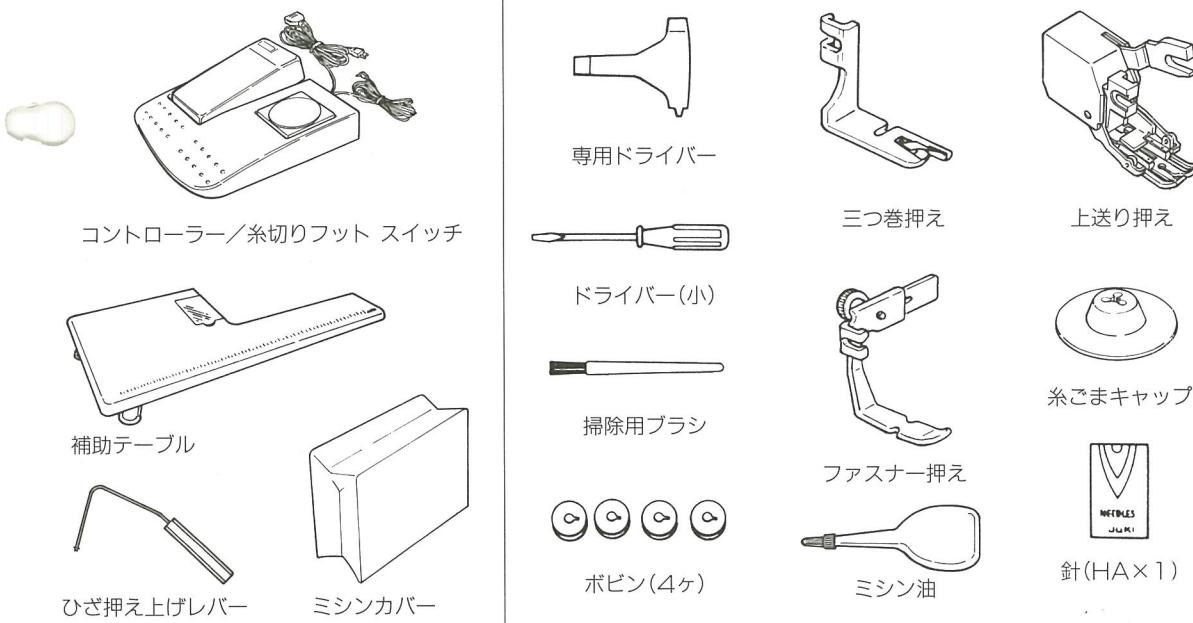
2. お客様ご自身での分解、改造はしないでください。

3. ミシンを操作するときかま部などカバー類を閉じてください。

4. ミシンの縫製中は針から目を離さないようにし、針、はずみ車（プーリー）、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。
5. 針折れの原因になるような曲がった針はご使用にならないでください。
6. 針折れの原因になりますので、縫製中に布を無理に引張ったり、押したりしないでください。
7. お子様がミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全にご注意ください。
8. 下記のことを行うときは、電源を切ってください。
   - ・針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。
   - ・下糸、上糸をセットするとき。
   - ・ランプを交換するとき。（ランプが冷えてから行ってください。）
   - ・取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。

9. 落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。
10. ミシンやコントローラーに下記の異常があるときは速やかに使用停止し、最寄りの販売店にて点検、修理、調整をお受けください。
    - ・正常に作動しないとき。
    - ・落下などにより破損したとき。
    - ・水に濡れたとき。
    - ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
    - ・異常な臭い、音がするとき。

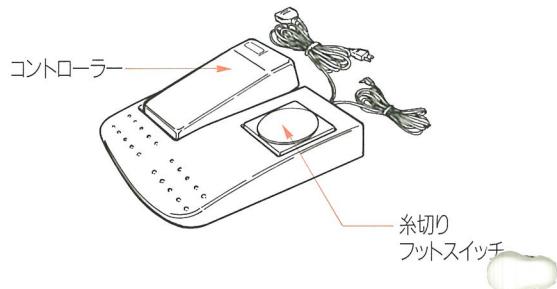
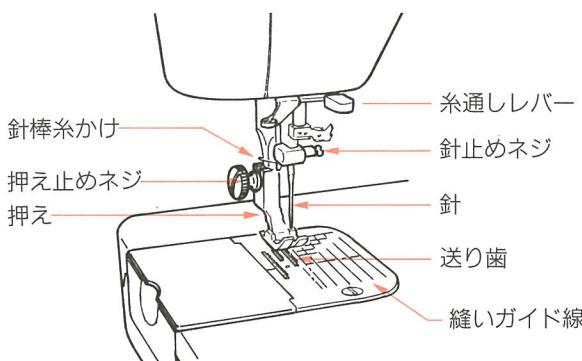
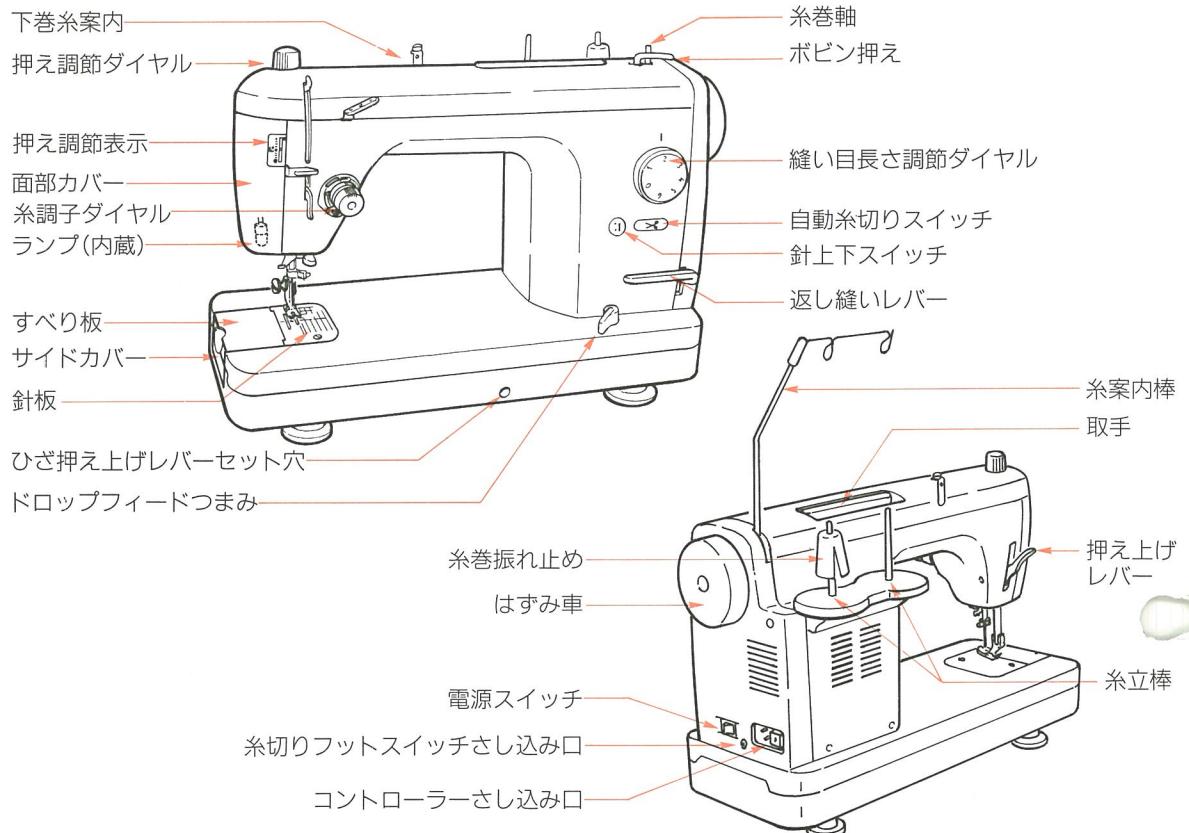
もくじ

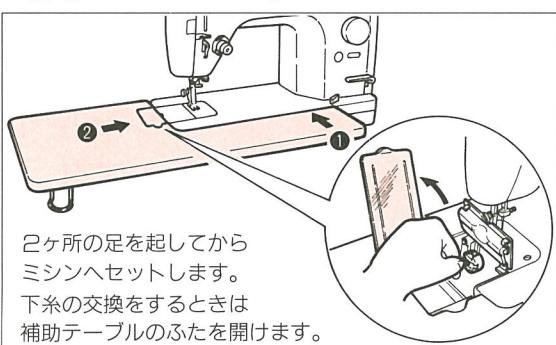
準備

安全にご使用していただくために…………表紙裏
仕様表……………………………………1
付属品……………………………………1
各部のなまえ……………………………2
　補助テーブルのセット
　ひざ押え上げレバーのセット
各部のなまえと　はたらき……………3
下糸を巻くには…………………………4
　糸案内棒と糸ごまのセット
　下糸巻きの糸のかけかた
　片巻きボビンを調整するには
上糸をかけるには………………………5
　針自動糸通し、下糸の引き上げかた

縫いかた・調節

ためし縫い………………………………6
　返し縫い、縫い方向を変えるには
　布地の裏で糸を結ぶとき
糸調子のとりかた………………………7
布地、糸、針の組み合わせ……………7
かざりステッチ…………………………7
針のとりかえかた………………………7
三つ巻縫い………………………………8
ファスナーつけ…………………………8
上送り押え………………………………8

お手入れ・交換

お手入れと注油…………………………9
ランプの交換……………………………9
別売品のご紹介…………………………9
故障かな…というときは………………裏表紙
アフターサービスと保証………………裏表紙

■仕様表

項　目	仕　　様
縫い速度	1,500針/分（最大）
縫い目の長さ	0〜6ミリ
針棒ストローク	32ミリ
押え上昇量	1段目7ミリ、2段目9ミリ、ひざ押え上げ12ミリ
使用針	HA×1またはHL×5
使用油	ニューデフリックスオイルNo.1

項　目	仕　　様
ミシン本体寸法	幅45.2×高さ31.9×奥行21.9(cm)
ベット寸法	幅43×奥行17.8 (補助テーブル幅59×奥行27.7)(cm)
重量	11.5kg
定格電圧/消費電力	100V/95W 50/60Hz
ランプ消費電力	12V 3W

■付属品

コントローラー／糸切りフット スイッチ

補助テーブル

ひざ押え上げレバー

ミシンカバー

専用ドライバー

ドライバー(小)

掃除用ブラシ

ボビン(4ヶ)

三つ巻押え

上送り押え

ファスナー押え

ミシン油

糸ごまキャップ

針(HA×1)

下巻糸案内
押え調節ダイヤル
押え調節表示
面部カバー
糸調子ダイヤル
ランプ(内蔵)
すべり板
サイドカバー
針板
ひざ押え上げレバーセット穴
ドロップフィードつまみ
糸巻軸
ボビン押え
縫い目長さ調節ダイヤル
自動糸切りスイッチ
針上下スイッチ
返し縫いレバー

糸案内棒
取手
糸巻振れ止め
はずみ車
押え上げレバー
糸立棒
電源スイッチ
糸切りフットスイッチさし込み口
コントローラーさし込み口

針棒糸かけ
押え止めネジ
押え
糸通しレバー
針止めネジ
針
送り歯
縫いガイド線

コントローラー
糸切りフットスイッチ

●補助テーブルのセット

2ヶ所の足を起してから
ミシンへセットします。
下糸の交換をするときは
補助テーブルのふたを開けます。

●ひざ押え上げレバーのセット

布地から手を離さずに、
押えの上、下ができます。
(押え上げ量、最大12ミリ)

補助テーブルの裏側に
格納できます。

コントローラーと糸切りフット スイッチのセット

❶ コントローラーのプラグを差し込みます。
❷ 糸切りフットスイッチのプラグを差し込みます。
❸ つぎに室内コンセントに電源プラグを差し込みます。

⚠注意 ミシンをお使いにならないときは下記のことを行ってください。

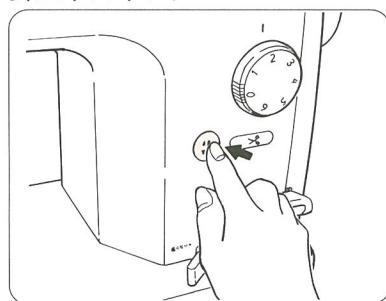
1. 電源スイッチを必ず切ってください。
2. 電源プラグは必ず室内コンセントから、はずしてください。
3. コントローラーの上に物を乗せないでください。

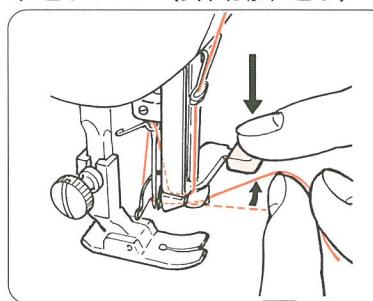
電源スイッチ

入る　手前側を押すとON.

切る　向こう側を押すとOFF.

縫い目の長さ調節ダイヤル

通常の合せ縫いは2～2.5です。
(調節範囲0～6ミリ)

自動糸切りスイッチ／糸切りフット スイッチ

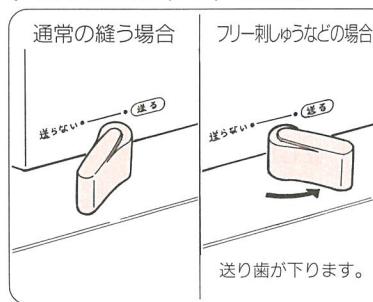
糸を切るにはどちらかをお使いください。

縫い終わってから上、下糸を同時に切ります。次に縫うとき下糸が針板上に見えなくても続けて縫うことができます。

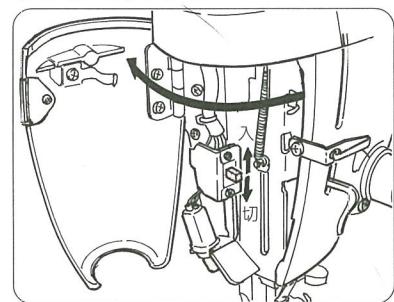
針上下スイッチ

スイッチを押すごとに針が上下します。針糸通しや、布地に針を落とすときなどに使います。

糸通しレバー(針自動糸通し)

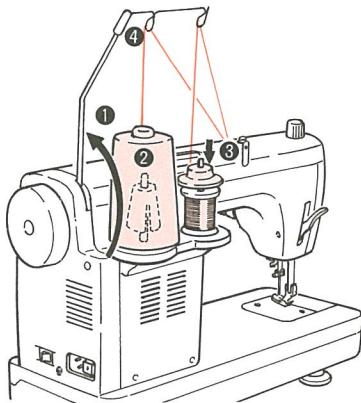
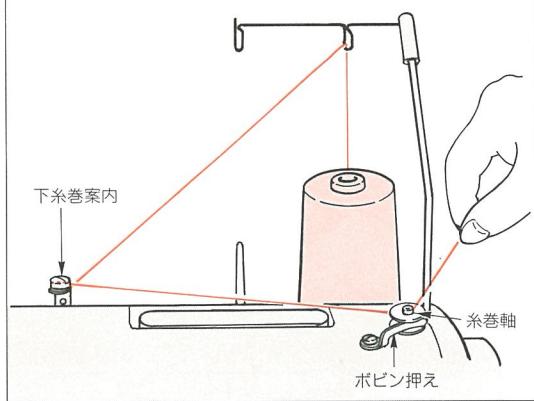
糸通しレバーを下げ、糸をかけて針穴に糸を通します。(11、14、16番の針に使用できます)使い方は5ページ参照。

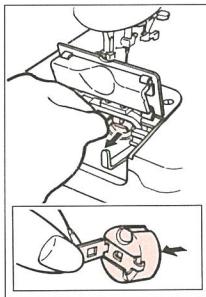
返し縫いレバー

縫い始め、縫い終りに返し縫いをすると、縫い目がほつれません。

押え調節ダイヤルと表示

押え調節ダイヤルを回すと指針が上下して、押え圧が調節されます。

ドロップ フィードつまみ

通常の縫いは(送る)に合せます。
フリー刺しゅうなどでは「送らない」に合せます。

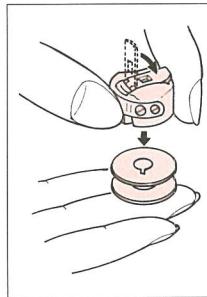
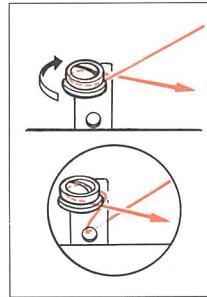
ランプ スイッチ

面部カバーを開けて、入・切をします。電源スイッチが入ってないとランプはつきません。

⚠注意 すべり板を開けるときは 電源スイッチを切ってください。

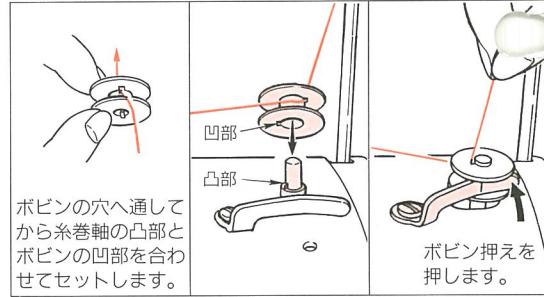
■糸案内棒と糸ごまのセット

❶糸案内棒を下から回転させて上にします。

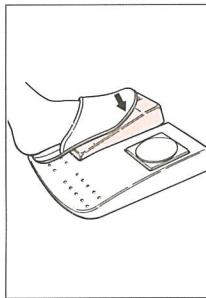
❷チーズ巻き糸は、糸巻振れ止めの上からセットします。

❸家庭用糸ごまは糸立棒にセットしてから糸ごまキャップを差し込みます。

❹糸ごまから出した糸を真上の糸案内(棒)にかけます。

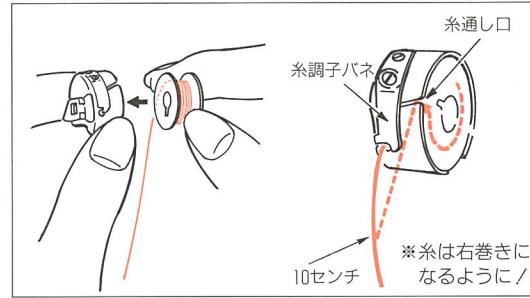
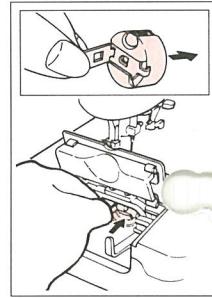
■下糸巻きの糸のかけかた

1 ボビンケースをとり出します

針を上げ、スベリ板を開いて、ボビンケースをとり出します。

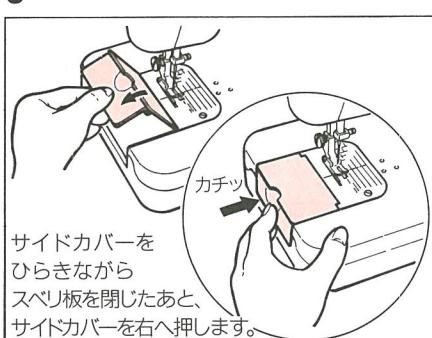
2 ボビンをとり出します

つまみを閉じてボビンをとり出します。

3 下糸巻案内にかけます

はずれやすい糸は下穴に通してからかけます。

4 ボビンをセットします

ボビンの穴へ通してから糸巻軸の凸部とボビンの凹部を合わせてセットします。

5 スタートさせます

6 巻き終ったら

余分な糸を切りボビンをとり出します。

7 ボビンケースに入れます

つまみを閉じてボビンを右巻きになるようにしてボビンケースに入れます。糸通し口に糸をすべらせて糸調子バネの下から10センチ位出します。

8 ミシンにセットします

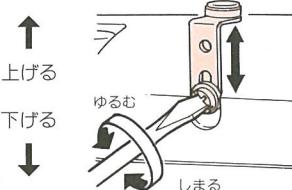
ボビンケースをカマにしっかり奥まで差し込み、つまみを閉じます。

9 スベリ板を閉じます

サイドカバーをひらきながらスベリ板を閉じたあと、サイドカバーを右へ押します。

■片巻きボビンを調整するには

正しい巻き上がり

ボビンに糸が平均に巻かれていないと、下糸の糸調子が悪くなる原因になります。

下側が多いとき

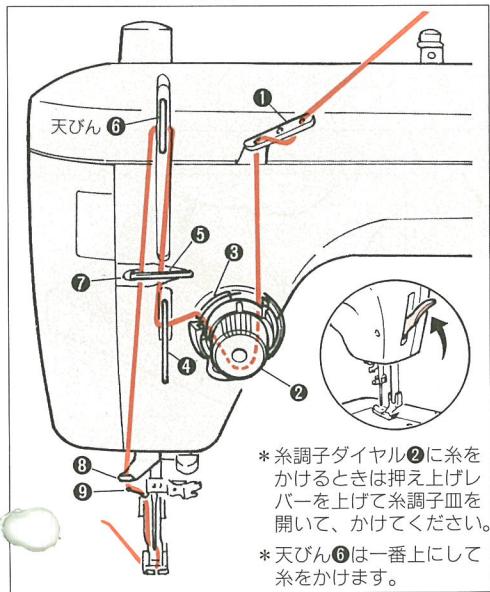
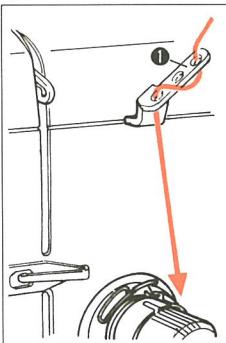
上側が多いとき

ネジをゆるめて下糸巻案内を上下させて調整します。

↑ 上げる

下げる ↓

ゆるむ

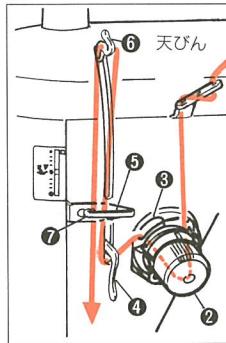
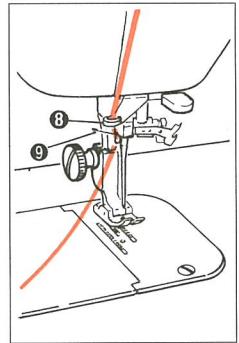
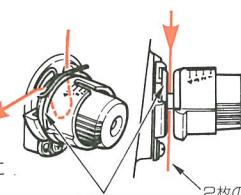
しまる

⚠注意　糸かけ、糸通しのときは 電源スイッチを切ってください。

■上糸をかける順序

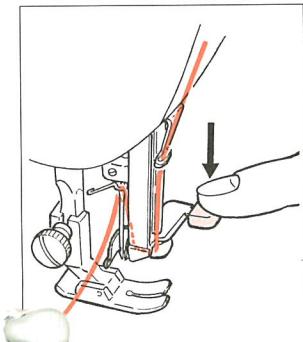
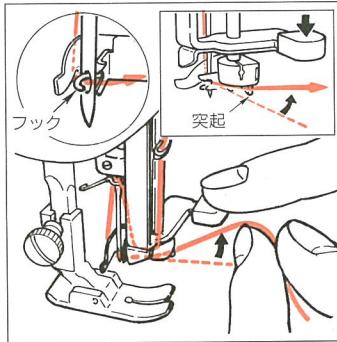
＊糸調子ダイヤル❷に糸をかけるときは押え上げレバーを上げて糸調子皿を開いて、かけてください。

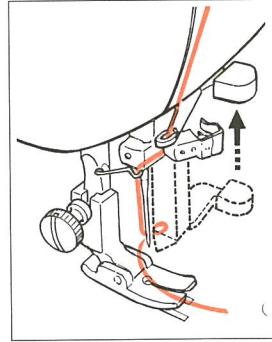
＊天びん❻は一番上にして糸をかけます。

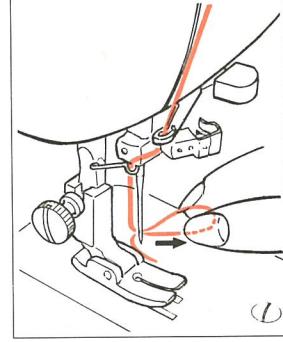
1 糸案内❶にかけます

2 ❷〜❼順にかけます

3 糸案内❽、❾にかけます

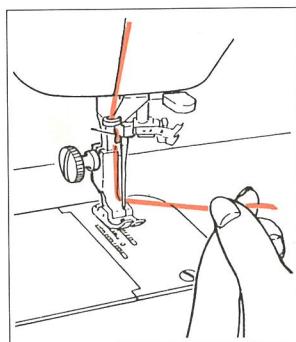
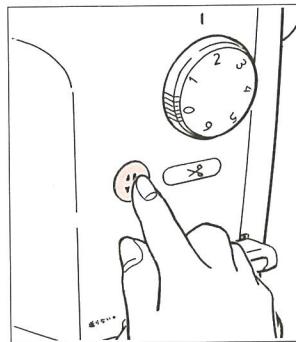
糸は10センチ位出しておきます。

テトロン糸など、よりの強い糸は○図のように糸案内へかけてください。

左撚(よ)り糸　糸　しまる	糸は左よりのミシン糸をお使いください。 右よりの糸は糸切れや目とびが発生します。

針自動糸通し

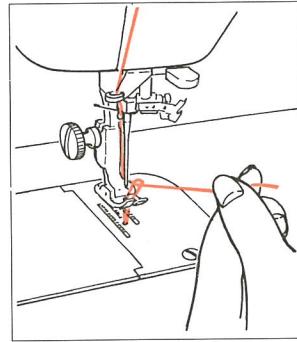
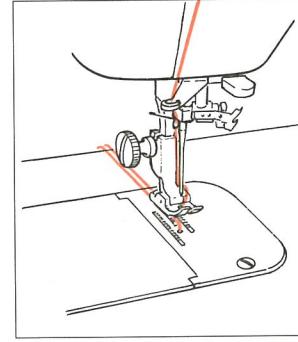
1 押えをさげ、糸通しレバーをさげます

針は最上点にして糸通しレバーをさげます。

2 フックにかけます

上糸を向こう側から手前にかけて突起に当てるまで右側へもって行きます。

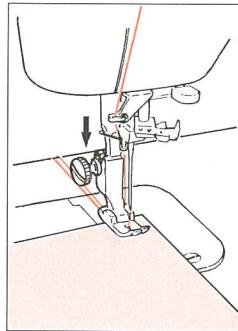
3 糸通しレバーから指をはなします

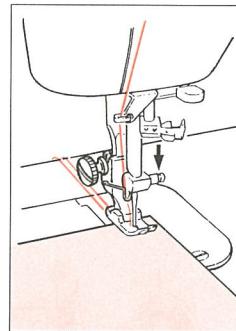
指をはなすとフックに糸をひっかけて針穴に通します。

4 糸をひき出します。

通した糸を針穴から10センチ位引き出します。

下糸の引き上げかた

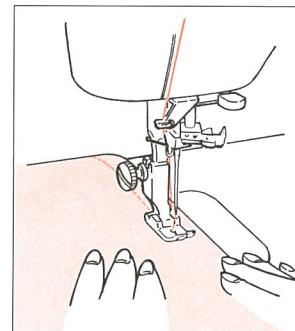
1 上糸を軽くもちます

2 針上下スイッチを押します

通常は2回押します。

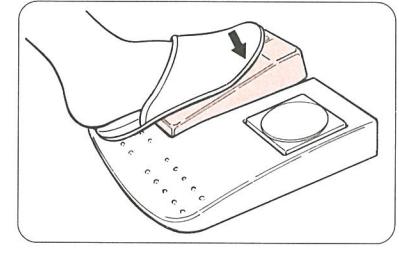
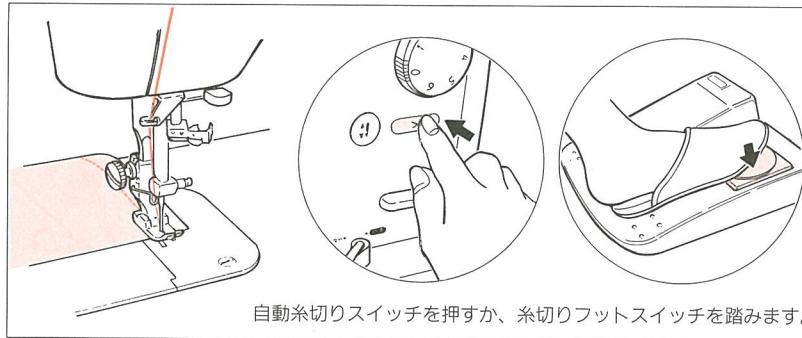
3 下糸が引き出されます

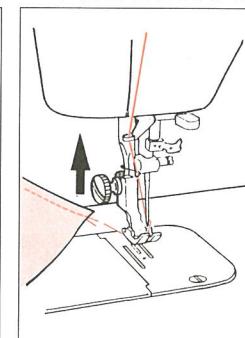
4 上・下糸を10センチ出します

上・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

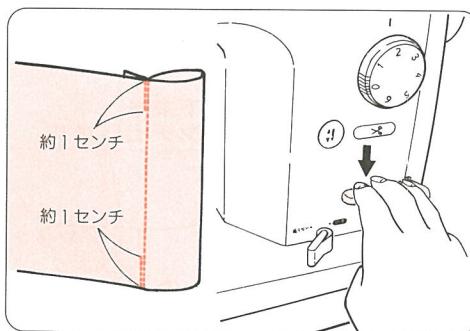
⚠注意 ミシンにセットしてあるコントローラーの上に物をのせないでください。

■ためし縫い

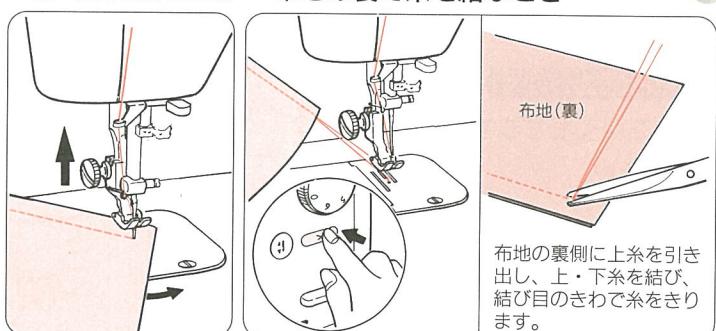
縫う前に天びんが一番上になっているか確認してください。
天びんが下から上にあがる状態で縫い始めますと上糸が針穴から抜けることがあります。

1 布地を入れ押えをさげます

上・下糸を向う側にして布地を入れ押えをさげます。

2 針をさげます

はずみ車を手前に回すか、針上下スイッチを押して針を布地に落します。

3 スタートさせます

縫っている間は布地を無理に引っぱらないようにします。

4 縫い終ったらストップさせ、糸切りをします

自動糸切りスイッチを押すか、糸切りフットスイッチを踏みます。

5 押えをあげて布地をとり出します

自動糸切りをすると針は上で止まります。(20番以上の太い糸や特殊な糸はハサミで切ってください)

※自動糸切りした後、下糸が針板上に見えなくても続けて縫えます。

●返し縫い

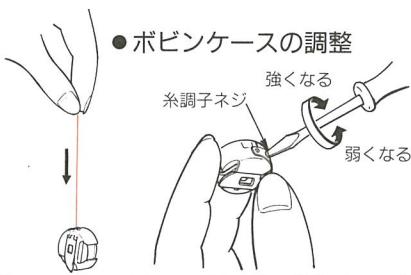
返し縫いレバーを押して縫い始めと縫い終りに返し縫いをすると縫い目がほつれません。

●縫い方向を変えるには

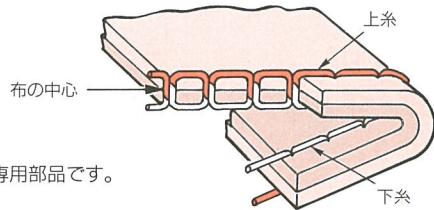
針は下停止ですので押えをあげて針を中心に布地を回します。

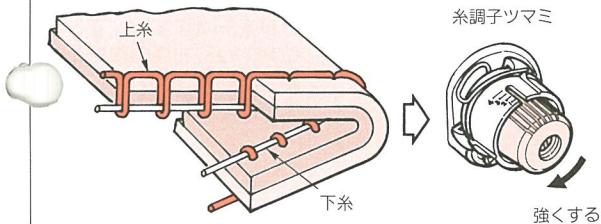
●布地の裏で糸を結ぶとき

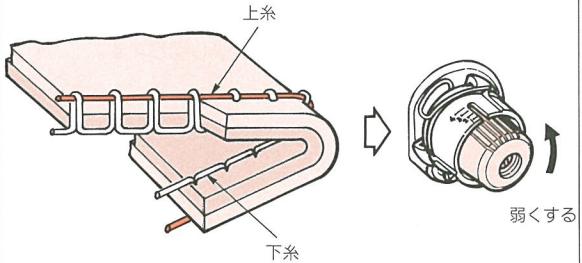
布地の裏側に上糸を引き出し、上・下糸を結び、結び目のきわで糸をきります。

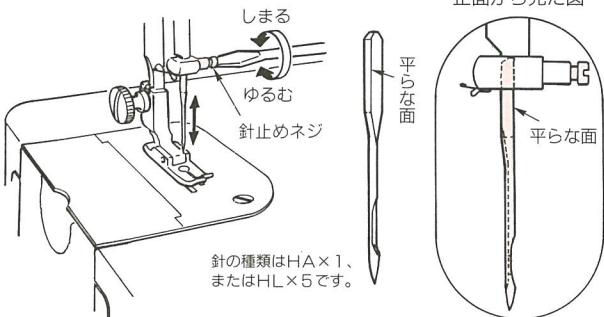
縫い終わったら針と押えを上げ、後ろ側へ布地とともに上・下糸を10センチ位引き出し、押えを下げてから自動糸切りスイッチか糸切りフットスイッチを押します。(上下糸が同時に切れます)

⚠注意 ボビンケースの取り出しや針の交換のときは電源スイッチを切ってください。

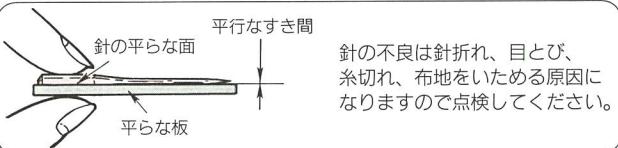
■糸調子のとりかた

ボビンケースの糸調子は右図のようにボビンケースにボビン(糸はポリエステルスパン#60)を入れて、軽くふって徐々に落ちる程度が目安です。

※この下糸の張力に合わせて上糸の糸調子を調節してください。

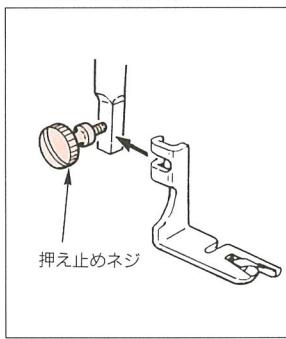
●ボビンケースの調整

※TL-90シリーズのボビンケースはJUKI専用部品です。お買い求めは販売店にご相談ください。

正しい糸調子

通常の正しい糸調子は上糸と下糸のからんでいるところが布の中心になります。

●上糸が弱い場合の調節

●上糸が強い場合の調節

■布地、ミシン糸、針の組合わせ

	布　地	ミシン糸	ミシン針 (HA×1)
薄　地	ローン キュプラ ジョーゼット	化繊糸＃80～＃90	9～11番
	スムース トリコット	化繊糸＃80～＃90	
[illegible]地	ブロード ギンガム	綿　糸＃60～＃80 化繊糸＃60～＃80	11～14番
	薄手ジャージー 化繊服地	化繊糸＃50～＃60	
	フラノ ウール	化繊糸＃50～＃60 絹　糸＃50	
厚　地	デニム	化繊糸＃20～＃50 綿　糸＃20～＃50	14～18番
	帆　布	化繊糸＃30～＃50	
	ツィード	化繊糸＃50 絹　糸＃50	
	人工皮革	化繊糸＃20～＃30	

■かざりステッチについて

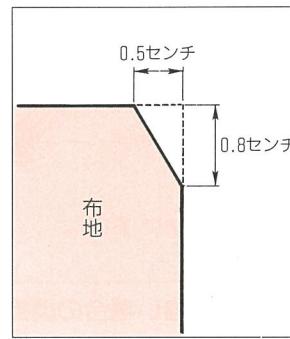
縫い目の長さ最大6ミリまでかざりステッチができます。
標準の地縫い糸から＃8までのステッチ用糸まで使えます。
選んだ糸により右表の針にとりかえてください。

糸の番手	針の番号
＃80～50	11番
＃60～50	11～14番
＃50～30	16番
＃20～8	18番

■針のとりかえかた

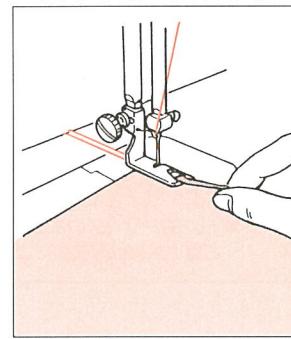
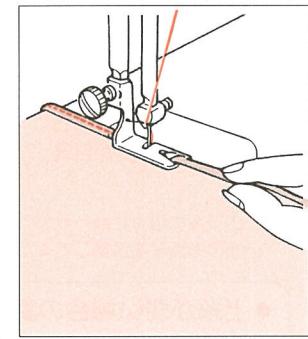
1. 押えをさげて、針棒を一番上にあげます。
2. 針止めネジをゆるめ針をはずします。
3. 新しい針の平らな面を右側にして上につかえるまで差し込み、針止めネジを締めます。

●正しい針の調べかた

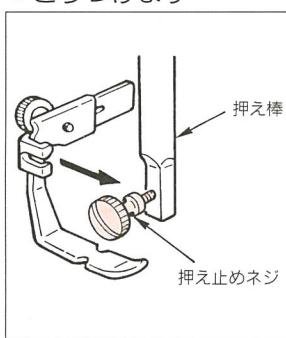
針の不良は針折れ、目とび、糸切れ、布地をいためる原因になりますので点検してください。

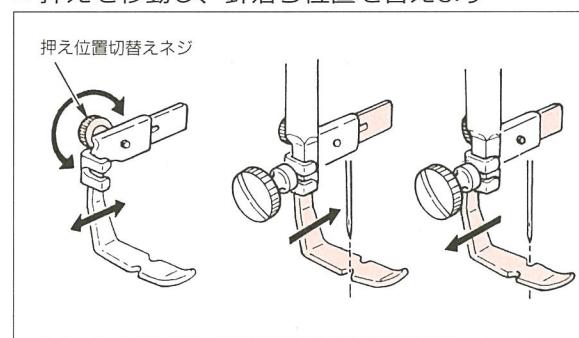
⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

■三つ巻縫い

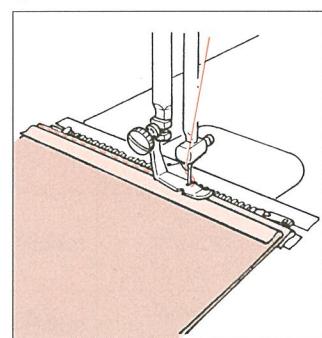
1 三つ巻押えをとりつけます

押え止めネジをゆるめて、取りつけます。

2 布端を切ります

布地を巻き込みやすくするために角を少し切ります。

3 切った布端を押えの渦のみぞへ入れます

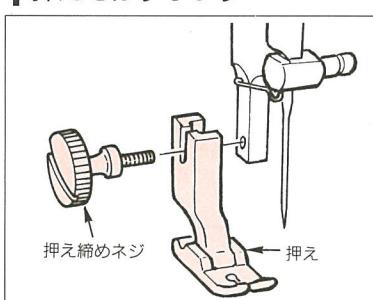
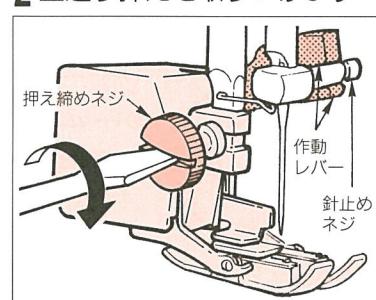
押えの渦状のみぞの中に布地を針がとどくところまで入れてから針を落して押えをさげます。

4 押えの渦の中に巻き込ませながら縫います

上下の糸端を左手で引き、はずみ車を3〜4回まわし、正しく巻きこまれたら、右手の親指と人さし指で布地をつまみ、常に適[illegible]り入れられるようにして縫い[illegible]。

■ファスナーつけ

1 ファスナー押えをとりつけます

押え止めネジをゆるめて押え棒の向う側からとりつけます。

2 押え位置切替えネジを回して押えを移動し、針落ち位置を替えます

3

ファスナーの左側を縫うときは押えを左に動かします。右側を縫うときは右に動かします。

■上送り押え

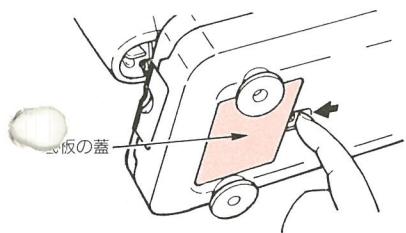
一般にミシンで送りにくい素材（ベルベット、ジャージー、ビニールクロス、人工皮革、皮など）に使いま[illegible]
滑らかな送りで布ズレを防ぎます。

1 押えをはずします

2 上送り押えを取りつけます

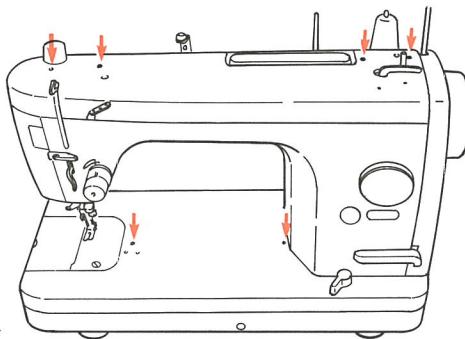
作動レバーの二また部分を針止めに入れ、取りつけ部を押え棒にはめ込み、押え締めネジをしっかり締めます。

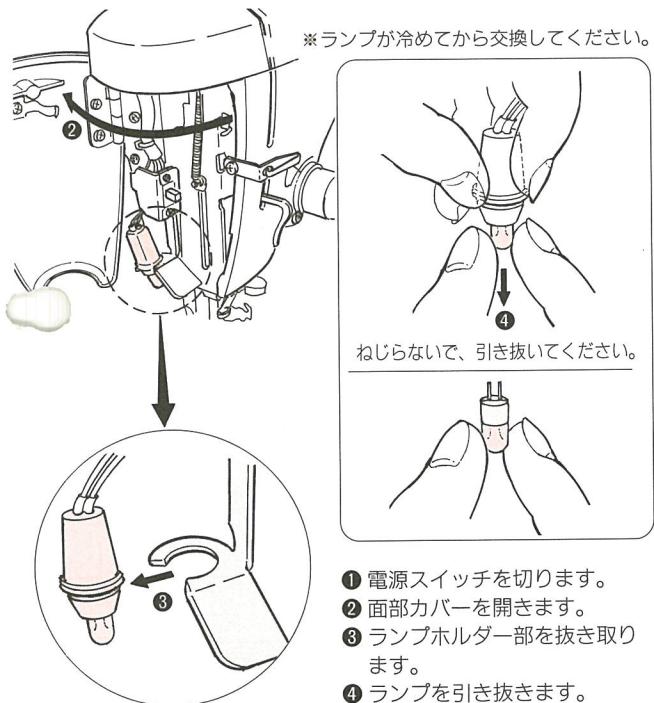
※押え調節ダイヤルを回して押え圧は「よわ目」にします。
（ベルベット地を縫うときは「一番よわく」してください。）

※縫い速度はゆっくりから中くらいで必ず縫ってください。

●ミシンの掃除や注油のときは、電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜き電源を切ってください。
●ランプの交換のときは、電源スイッチを切ってください。

■お手入れと注油

●送り歯とカマの掃除

●針、押え、針板を取りはずして、送り歯とカマ周辺を掃除用ブラシできれいにします。

●掃除や万一ボビンを落したときなど底板の蓋をあけることができます。

●注　油

●矢印の箇所に2～3滴注油してください。
●付属のミシン油（ニューデフリックスオイルNo.1）をご使用ください。
●毎日ご使用の場合は1日1回注油してください。
●注油後は必ず試し縫いをしてください。

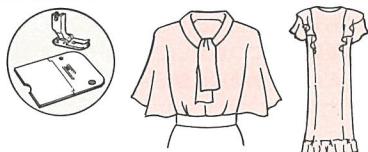
ボビンケースを取りはずしてから行ってください。

■ランプの交換

※ランプが冷めてから交換してください。

❶ 電源スイッチを切ります。
❷ 面部カバーを開きます。
❸ ランプホルダー部を抜き取ります。
❹ ランプを引き抜きます。

ランプ消費電力 12V 3W

※ランプのお買い求めは販売店にご相談ください。

■別売品のご紹介

●専用テーブル

テーブル寸法（幅111×奥行45×高さ75）cm

●薄物用押え・針板

ローン、ジョーゼット、トリコットなどの薄地縫いに適します。

●厚物用針板

※別売品のお買い求めは販売店にご相談ください。

■故障かな…というときは

下記のことをお調べのうえ、それでも具合の悪い場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

症　状	原　因	処　置	参照ページ
目とびがする	1．針が曲がっている、針先がまるいとき 2．針が針棒に正しく取りつけていないとき	・針を交換します ・針を正しく取りつけます	7 7
上糸が切れる	1．糸のかけ方を誤ったとき 2．糸の張力が強いか弱すぎるとき 3．針が曲がっているか針先がまるいとき 4．針と糸の太さが合わないとき	・糸のかけ方を正しくします ・張力を合わせます ・針を交換します ・糸と針の太さを合わせます	5 7 7 7
下糸が切れる	1．糸の張力が強すぎるとき 2．ボビンケースのバネが摩擦して溝が生じたとき 3．針板の針穴にキズがついたとき	・張力を弱くします ・ボビンケースを交換します ・針板を交換します	7 − −
針が折れる	1．針が曲がっているか取りつけ方を誤ったとき 2．針板や押えに針が当たるとき	・針を交換し正しく取りつけます ・針や針板、押えを正しくつけます	7 −
縫い目にしわがよる	1．布地に対して押え調節ダイヤルが強いとき 2．上糸と下糸の張力が合わないとき 3．針と糸の組合せの悪いとき 4．針が布地に対して太すぎるとき	・押え調節ダイヤルで弱くします ・下糸張力を合せ、それに対して上糸張力を合せます ・針と糸の組合せを適した組合せに変更します ・糸を布地に合せて交換します	3 7 7 7
縫い目の調子が悪い	1．上糸と下糸の張力が合わないとき	・下糸張力を合せ、それに対して上糸張力を合せます	7
回転音が重い、 または、音が高い	1．送り歯にゴミがたまっているとき 2．長時間使用して油がなくなったとき 3．ミシン油でない油を使用したとき 4．カマに糸クズがたまっているとき	・ミシンの手入れをします ・　　　〃 ・ミシン油(ニューデフリックスオイルNo.1)を使います ・ミシンの掃除をします	9 9 9 9
はずみ車が重く、 回らない	1．カマに糸がからんで食い込んでいるとき	・カマに注油してから、はずみ車を前後に強く数回まわし、からんだ糸を取り除きます	−
布を送らないとき	1．縫い目の長さが0になっている 2．ドロップフィードつまみが「送らない」になっている 3．押えの圧力が弱い	・適正な縫い目の長さをセットします ・(送る)にセットします ・押え調節ダイヤルを回し圧力を強くします	3 3 3
針糸通しができない	1．針が上にあがっていないとき 2．針をとりつけるとき上までつき当ててないとき 3．糸通しレバーをさげたまま(糸通し中)誤ってミシンを回してしまったとき	・はずみ車を回すか、針上下スイッチを押して針を最上点にあげます ・針を正しく取りつけます ・はずみ車を手でわずか向う側（縫う時と反対）に回します	5 7 −

※ボビンケース、針板はJUKI専用部品です。

■アフターサービスと保証

- このミシンには保証書がついています。
- 保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げの日から1年間です。ただしメイン基板については2年間です。
- 保証期間中でも有料になることがありますので、ご了承ください。(保証書に詳細が記載してありますので、そちらをご覧ください。)
- 保証期間経過後の修理につきましては、販売店にご相談ください。
当社は、このミシンの補修用性能部品を、製造打切り時点から最低8年間保有しています。

JUKI

購入店名	後日のため記入しておいてください。 サービスを依頼されるときお役に立ちます。
電話（　　-　　-　　）	
購入年月日：　年　月　日	

JUKI株式会社
〒182-8655 東京都調布市国領町8-2-1
☎03-3480-5655

000398 (T)